



※温度の急激な変化で血圧が大きく変動することが原因で起こる心筋梗塞や不整脈などの健康被害。

地域に合った条件で
組んだ結果でしょうね。
犬塚 温度変化がなく、ヒートショック[※]が起きづらい家は、身体に優しい健康的な住宅といえますね。弊社は「食の安全と環境」をテーマにして安心・安全な食を届けることを使命としています。そのうえで、健康に過ごすためには、食べるものに気を遣うだけでなく、住まいにも気を遣わなければいけませんね。
妻沼 そうですね。断熱性の悪い壁の表面や、気密性の悪い壁の中などには結露ができます。結露はカビや

ダニが発生する原因にもなります。これがあまりひどいと健康が脅かされる場合があります。SHS住宅は、この点は心配ありません。また、計画換気によって室内の空気を常にきれいに保つので、健康的な住まいと言えるでしょうね。
犬塚 地球環境への配慮や、住宅の省エネルギーをさらに促進するために、ゼロエネルギー住宅に注目が高まっていますよ。SHS会での取り組みを教えてください。
土屋 国内での地域差はもちろんですが、道内だけ見ても日照条件、積雪量など、地域差があります。一律にソーラーパネルを付ければいいかという点、そうではありません。地中の熱を冷暖房に利用すれば、電力量が圧倒的に減ることもあります。ソーラーパネル、断熱・気密、地中エネルギーなど、いろいろな選択肢がある中で、その地域に合うゼロエネルギー住宅をつくるべきだと思います。だからこそSHS会は地域密着をモットーとしています。地域の事情に合った工法、エネルギー対策が提案できるのは、地元気候風土を知り尽くしている地元工務店だけだと自負しています。これからも地域に根差した家づく

りをしていきたいと思っています。
犬塚 いくらネット社会とはいえ、その土地のお客さまのニーズや生の情報は現地でなければつかえません。SHS会と同様に、我々も北海道にしっかりと根をおろした活動を行っていききたいですね。
土屋 お客さまの動機づけも大事ですね。ヨーロッパの人たちは同じ値段なら、環境負荷の少ない商品を選ぶそうです。こういう動機につながるような情報発信も企業の努めだろうと思います。
妻沼 選ぶのはお客さまですからね。SHSやゼロエネルギー住宅がただ素晴らしいというだけではなく、環境への効果など利点をわかりやすく伝えなくてはなりませんね。
犬塚 食品においても同じです。ヨーロッパでは、環境保全を理由に有機農産物を選択する方が多く、日本では、自身の健康を考えると選ぶ方が多いというアンケート結果があります。このことから、農業による環境負荷低減の必要性など、お客さまへ情報を正しく伝えることは我々が取り組むべき大切なことですね。もちろん、野菜たちの美味しさも、伝えていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

対談を終えて——犬塚 龍博

地域のお客さまに対して、できる事の一つに正確な情報発信があると感じました。農林水産省が策定した「有機農業の推進における基本的な方針」の一つに、「2018年までに、有機農業の定義やその社会的意義について、消費者の理解を50%以上にすると、あります。つまり現状では、ほとんどのの方が認知されていないのです。今後、日本の有機農業のマーケットを広げていくには、SHSに倣うように、行政や企業からの情報発信が重要だと分かりました。



提供写真

らでいっしゅぼーや北海道センター(札幌市東区)
1990年、北海道地区で無・低農薬野菜の会員制宅配事業を開始。
「生産者・メーカーとの強固なパートナーシップ」を通じて、良質・安全な商品を提供する。

寒冷地での快適な住まい
犬塚 私は道外出身なのですが、家の中で快適に暮らすためには高断熱・高气密がどれほど重要なのか、寒い北海道に住んでみて初めて体感しました。高断熱・高气密住宅のバイオニアがSHSだそうですね。
妻沼 SHSは「スタイロ・ハウス・システム」の略で、建築資材を取り扱うダウ化学(株)が開発した家の工法を指します。簡単に説明すると、家を外側から丸ごとすっぽり高性能断熱材でくるんでしまう工法です。ダウ化学(株)の高断熱・高機密住宅への取り組みは早く1978年から開始しており、初期のシステムを完成させたのは1982年の

ことなので、先駆けと言っているでしょうね。
犬塚 33年前から取り組んでいらっしゃるんですね。お二人が所属しているSHS会というのはどういうものですか。
土屋 SHSは公の認定を数多く受けている工法なので、誰もが建てられるわけではなく、技術と知識を兼ね備えた建築会社のみがSHSの家を建てることが出来ます。その建築会社の集まりがSHS会です。発足して今年で27年になります。
犬塚 弊社も設立して27年、同級生というわけですね。初めての冬を迎える時は、どれだけ寒いのかと不安だったのですが、屋内ではTシャツで過ごせるくらい快適でした。こ

れは同じ雪国の東北などと比べても珍しいのではないのでしょうか。
土屋 以前、道外の友人宅に行った時のことですが、リビングは26度あるのに、脱衣場は10度くらい、寝室は15度など、温度差がありました。若い人は温度差は気にならないと思いますが、歳をとると血圧が上がるのがわかりますから(笑)、つらいんですよ。でも、断熱気密化されたSHSの家は、どの部屋でも同じような室温になります。床と天井の温度差も少ないので、どこも快適に過ごせます。
妻沼 断熱や気密の性能をこまめに上げたのは、道庁による行政主導のもと、北海道の家づくりをどうするべきか、きちんと政策として取り



▶今回、3人が鼎談したフレンチレストラン「メゾン・ド・アッシュ レリタン」は、1日昼と夜、各1組のみの予約しか受け付けない1軒屋のフレンチレストラン。2006年にオープンした際、SHSを採用。利点であるすぐれた換気によってオープンキッチンにも関わらず調理の匂いがこもらない。

Hokkaido

企業

道産子企業の様々な取り組みを
有機・低農薬野菜、
無添加食品の宅配サービスの
「らでいっしゅぼーや」が
ホストで切り込むスペシャルトーク。

vol.
2

地域密着について
訊いてみた



北海道センター長
犬塚 龍博

らでいっしゅぼーや株式会社

ホスト

ゲスト

北海道SHS会



拓友建設株式会社
代表取締役
北海道SHS会 会長
妻沼 澄夫さん



株式会社光栄建設
代表取締役
北海道SHS会 副会長
土屋 隆幸さん